

# 議員と語りかい 報告書

産業建設常任委員会 (No.1)

開催日	平成27年2月3日(火) 午前10時00分～11時40分		
開催場所	錦江漁業協同組合 漁村センター2階 会議室		
団体名	錦江漁業協同組合	参加人員 (男:女)	9人 (9人:0人)
出席議員	下深迫 孝二、前島 広紀、岡村 一二三、新橋 実、厚地 覚、 中馬 幹雄、木野田 誠		
役割分担	委員長(下深迫孝二) 副委員長(前島広紀) 記録係(中馬幹雄)		
テーマ及び具 体的な内容	漁協・漁業に関する要望		

## <意見交換での主な意見等>

- ◆ 下井沖で、海苔の種を付けて養殖を行っていたが、6年くらい前から種は付くが、全然成長しないため海苔養殖ができなくなった。海水の透明度は近年良くなっている。同じ海苔の種が重富沖では立派に成長し、商品化されている。  
このことは下水道の排水が原因ではないかと考える。調査してもらいたい。

⇒【議員】今後、生活排水等による河川や海の環境汚染を調査することを検討しているところである。(環境福祉常任委員の回答)

- ◆ 2年前から国の事業でアマモの植え付けとワカメの養殖を始めた。また、カキ殻をネットに入れてアサリ貝の調査を同時に行っている。ワカメは順調に育っているが、アマモは全く育たない。アサリ貝はネットの中に住み着いており、中には親指大に育っているものもある。アマモは海底に植え付けるわけだが、全然育たないのは何が原因だろうか。

⇒【議員】ワカメは海中で育成されていると思う。海水の透明度が良くなったため、ワカメの育成条件が良くなったのだと思う。一方、アマモとアサリの育成は海底の土壌の中である。この土壌に原因があるのではないかと思う。全国的にアサリ貝が激減して、各地で土壌改良等が試行されている。カキ殻を入れたネットの中では育っているわけなので、土壌が酸欠、又は酸性化して動植物が育たなくなっているのだと思う。そこで、今、行っている事業に海底の耕起等を組み入れて、土壌改良を行ってはどうか。私たちも干潟の土壌診断を検討している。

- ◆ 霧島市で三島を買い戻してほしい。観光資源として活用すれば観光客も増えて、我々も魚獲りだけでなく、島を利用した仕事ができるのではないか。

⇒【議員】市が所有すると、施設整備や事故の補償等に莫大な費用が必要となるとの説明を行政側より受けている。

◆ 組合員が高齢化し、獲る漁業だけでは生計は成り立たない現状である。もっと若者に魅力のある漁業にしたいが、市の方でも取り組んでもらえないか。

⇒【議員】今までの獲る漁業から、育てる漁業への移行は考えられないか。流通をどのように変えていけばいいか、また付加価値をどう付けるか知恵を出す時期に来ているので、漁協全体として取り組んでほしい。

◆ 港の浚渫をしてほしい。

⇒【議員】浜之市港は、県の管轄であるので県に要請してある。

◆ 軽油用のタンクを設置してほしい。

⇒【議員】担当課へ伝えたい。